

優秀賞

小さな一歩を踏み出して

山形大学附属中学校 3年 島田 将吾

今年の夏、「第百一回全国高校野球選手権大会」が行われた。その中で、私が最も印象に残っている場面がある。酷暑により、ある投手が右手首をつりかけていた時だった。それに気付いた相手側のベンチにいた球児が、自分が飲むために用意していたスポーツドリンク入りのコップを片手にグラウンドへ飛び出してそれを彼に差し出したのだ。私は、たとえ敵であっても迷いなく助けてあげる球児の姿に心を打たれ、そのシーンに目が釘付けになった。

そしてその時、自分の過去の失敗が私の頭をよぎった。それは、バス停での出来事だった。杖をつく腰の曲がった老人がよたよたとした足取りでバスの入り口の段差に足をかける。しかし、もう一方の足がなかなか上がらない。私は、老人の体を支えようと進み出ようとした。しかし、私の助けがなくても上がれるだろうという気持ちでそれに歯止めをかける。助けに行くことに踏み出せずに躊躇していると、結局老人は本人の力で上がって行ってしまった。私の心の中には、助けに行こうと思っても勇気が足りずに行動できなかったという後悔の苦々しい後味だけが残っていた。その時私は、多くの人を助けられる人間になろうと決心した。

かつて、マザー・テレサは、「私たちは、大きいことはできません。小さなことを大きな愛をもって行うだけです。」と言った。昔の私は「大きいこと」しか見えていなかったが、今の私にとって「小さなこと」は、身近にいる少し困っている人を助けることだと思う。今改めて自分の失敗を思い返すと、「今私にできることは社会のほんの一部の人を助けることだけなのかもしれない。しかし、その小さな一歩を踏み出すことで、少しずつでもいいから社会がよくなっただけほしい。」と考えるようになった。私は、甲子園で差し出された一個のコップにその願いをいっぱい注いで、今日も、そしてこれからも届けていきたい。